

まち・ひと・しごと創生

大野市総合戦略

(平成 27 年 10 月策定)

(令和 2 年 3 月期間延長)



福井県 大野市

目 次

1. 基本的な考え方	1
(1) 背景と目的	1
(2) 総合戦略の位置付と総合計画との関係	2
(3) 総合戦略の対象期間	2
(4) 目指すべき将来像	2
2. 政策の企画・事項に当たっての基本方針	3
(1) 従来の方針の検証	3
(2) 市民ニーズを踏まえた現状と課題	5
(3) 目指すべき方向性	6
3. 今後の施策の方向	7
(1) 安定した雇用を創出する	7
(2) 新しいひとの流れをつくる	11
(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	18
(4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する	21
4. 重点事業	27
(1) 「安定した雇用を創出する」関連	27
(2) 「新しいひとの流れをつくる」関連	29
(3) 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」関連	31
(4) 「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する」関連	32
(5) 全体的に関連する重点事業	34
●用語解説	36

1. 基本的な考え方

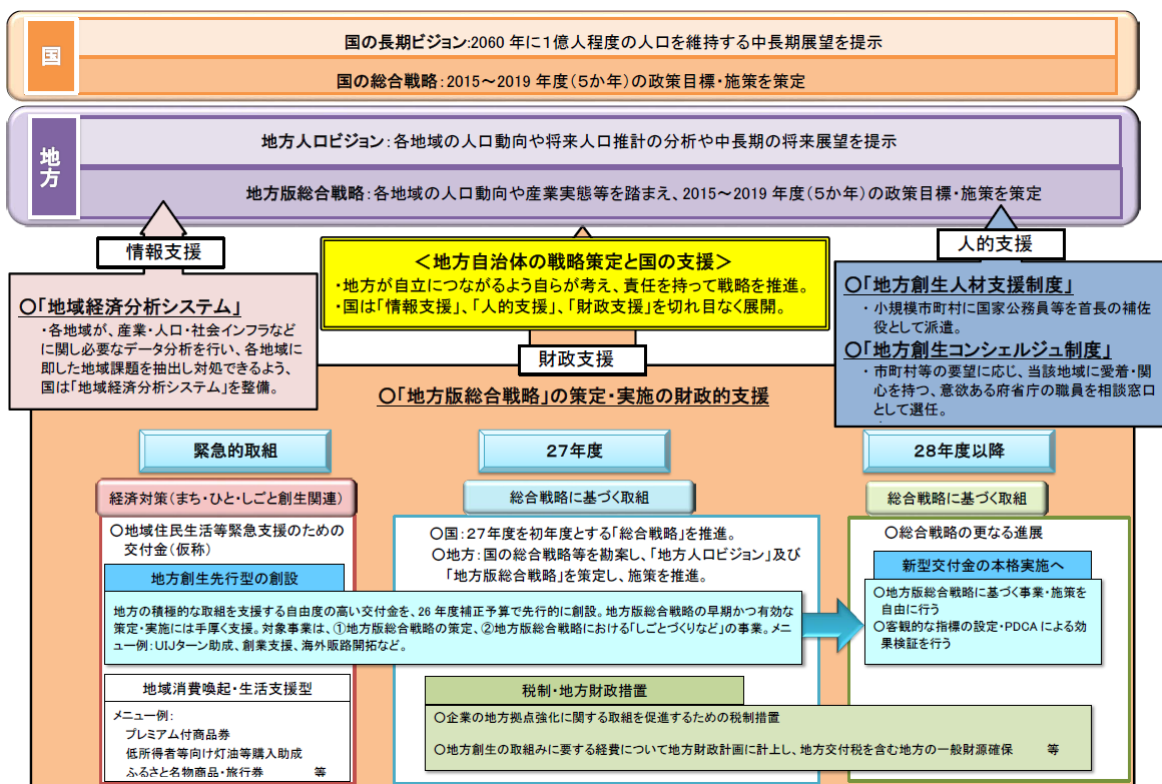
(1) 背景と目的

全国的に見ると平成20年頃から人口減少時代が到来し、今後、加速度的な人口減少が懸念されます。人口減少は、第一段階（若年減少、老年増加）、第二段階（若年減少、老年維持・微減）、第三段階（若年・老年とも減少）を経て進行していきますが、地方では既に第二・第三段階となっています。

人口減少を食い止めるためには、「まち」「ひと」「しごと」の創生を図って、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことが必要です。

そのため、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）が制定され、平成26年12月27日に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。これを受けて、地方公共団体においては、「地方人口ビジョン」、及び、「地方版総合戦略」の策定に努めることとなっています。

大野市においても、人口減少や少子化・高齢化の進行に伴い地域コミュニティの存続が危ぶまれている現状を鑑みて、議会の代表をはじめ、産、官、学、金融機関、労働団体、メディア、女性、若者、高齢者など各界各層の方々との連携のもと、人口減少対策や地方創生に戦略的に取り組んでいくことを目的に「大野市人口ビジョン・大野市総合戦略」を策定します。

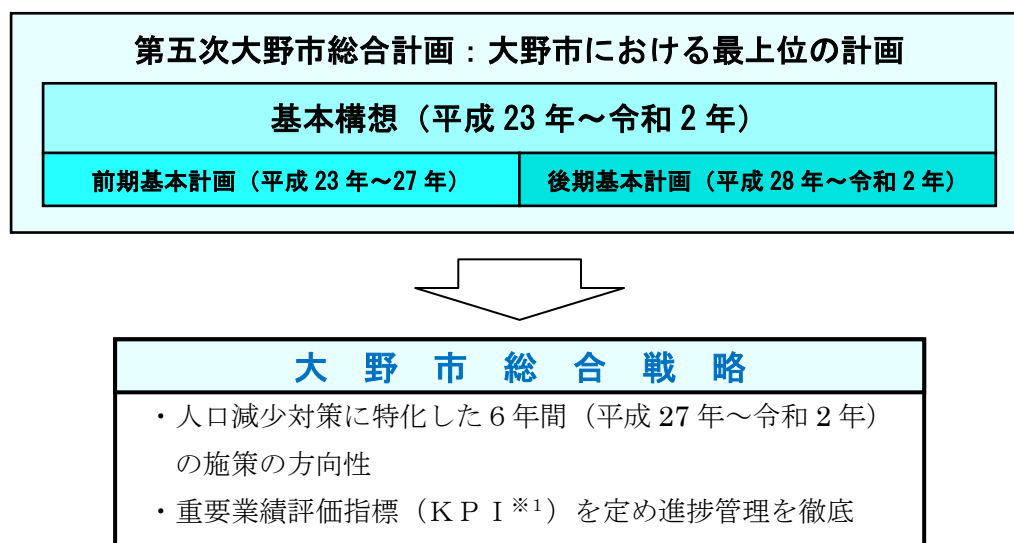


(2) 総合戦略の位置付と総合計画との関係

現在、第五次大野市総合計画後期基本計画の策定を進めていますが、総合戦略はこのうち、人口減少対策に主眼を置いた計画として位置付けられます。

第五次大野市総合計画後期基本計画に記載する事業のうち、人口減少対策と捉えられる事業を総合戦略に位置付けることとします。

その上で、特に重点的・優先的に進める事業を抽出しながら、大野市の地域特性を踏まえた人口減少対策の考え方を明確にします。



(3) 総合戦略の対象期間

大野市総合戦略の対象期間は、平成 27 年度～令和 2 年度までの 6 年間とします。

(4) 目指すべき将来像

総合計画に掲げる将来像「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」を目指して、多様な取り組みを進めていきます。

また、具体的な将来目標人口としては、令和元年（2019 年）に定住人口 32,100 人、令和 22 年（2040 年）に定住人口 27,000 人とすることを目指します。

2. 政策の企画・事項に当たっての基本方針

(1) 従来の方針の検証

大野市では、国の総人口が今後長期の減少過程に入ることを踏まえて、地域活力の維持・増進に向けて、定住人口に交流人口を加えた「ふれあい交流人口」の数値目標を掲げ、様々な政策を進めています。

●「安定した雇用を創出する」関連

- ・地域経済の活性化と雇用の場の確保の観点から、企業誘致活動に取り組み、物流関連企業や木質バイオマス発電^{※2}関連企業などの誘致を進めてきました。
- ・認定農業者^{※3}の取り組みを学ぶ現地研修会や農業者の所得向上を図るための講演会、農産物商談会などを開催する事業を通して、農業の担い手育成を図ってきました。
- ・農業農村集落の活性化に向けた取り組みに対して支援を行うことによって、活動の推進を図ってきました。
- ・地域における継続的な雇用機会を創り出すための事業を進めてきました。

●「新しいひとの流れをつくる」関連

- ・「華のジュータン形成事業」を継続実施してきたことによって、多くの人々に季節の風物詩としての認識が定着してきました。
- ・中部縦貫自動車道や国道158号などの幹線道路の整備を進めてきたことによって、交流人口の増加に繋がっています。
- ・まち全体のイメージ向上を図るため、「越前おおのブランド戦略」を策定するとともに、様々な魅力の創出を図ってきました。
- ・食文化の伝承や特産品の販売促進に向けたイベントなどを支援することによって、まち全体の活性化を図ってきました。
- ・まち全体の活性化を先導するため、民間の活力も取り込んだ「中心市街地活性化基本計画」を作成し、国の認定を受けました。この計画に沿って、様々な活性化策を推進してきました。
- ・「ふるさとといずみ回帰支援事業」では、和泉地区から県外へ移住した人を対象に地域情報を発信して、ふるさとへの回帰を促しました。
- ・「現役世代交流促進事業」では、同窓会開催の経費の一部を補助し、帰省者の交流促進を図りました。

●「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」関連

- ・保健・医療・福祉サービスの拠点を整備し、子どもから高齢者までの一連のサービスをワンストップ^{※4}で提供できるようになりました。
- ・児童手当の給付や医療費助成など子育て費用の軽減や、相談・育児支援機能の強化、地域における交流・学習活動の促進などによって、子育て環境の向

上を図ってきました。

- ・セミナー・イベント開催による婚活支援や、市内での結婚式開催への経済的支援を行うなどによって、結婚の促進を図ってきました。

●「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」関連

- ・「結の故郷創生会議^{*5}」を設置し、人口減少対策についての検討を進めてきました。
- ・大きな地域資源である「水」の保全・活用に向けて、計画策定、調査研究、条例制定、広報活動など様々な事業を進めてきました。
- ・市民が主体となって自主的に企画・提案・実施する地域活性化事業を支援することによって、市民協働の推進やコミュニティ強化などを図ってきました。
- ・自主防災組織の運営補助や研修会を行うことによって、緊急時に対応できる地域組織体制の強化を図って、安全安心なまちの環境向上を進めてきました。
- ・まちなか循環バスや乗合タクシーを本格運行し、公共交通の利便性を高めてきました。
- ・市制施行60周年に合わせて「結の故郷発祥祭」を開催し、市民が互いに助け合い地域とのつながりを大切にする「結の心」を再認識して「結の故郷」にふさわしい人やまちを目指すきっかけにするとともに、「結の故郷越前おおの」を全国に発信することで誘客を促進し、地域を活性化させることを目的に活動を進めてきました。

(2) 市民ニーズを踏まえた現状と課題

市民意向調査や、各界各層の代表で構成された「人口減少対策会議」、人口減少対策にかかる調査・研究・具体的施策検討を行う「結の故郷創生会議」などで抽出された現状と課題を以下にまとめます。

●「安定した雇用を創出する」

- ・働く環境の充実（企業誘致、新たな産業育成など）
- ・大野市の特性を活かした農林業の発展・推進
- ・産業の発展に向けた多様な取り組みの促進
- ・雇用者のニーズに合った福利厚生の実施

●「新しいひとの流れをつくる」

- ・観光スポットの創出や魅力向上
- ・観光しやすい環境の整備
- ・イベントや広報の充実
- ・大野市の良さを知ってもらうための取り組みの充実（特産品や地域ブランドの確立、PR強化など）
- ・商店街の魅力向上や機能強化
- ・空き家を活用した定住の促進
- ・大野市の特徴の一つである「水」の保全

●「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

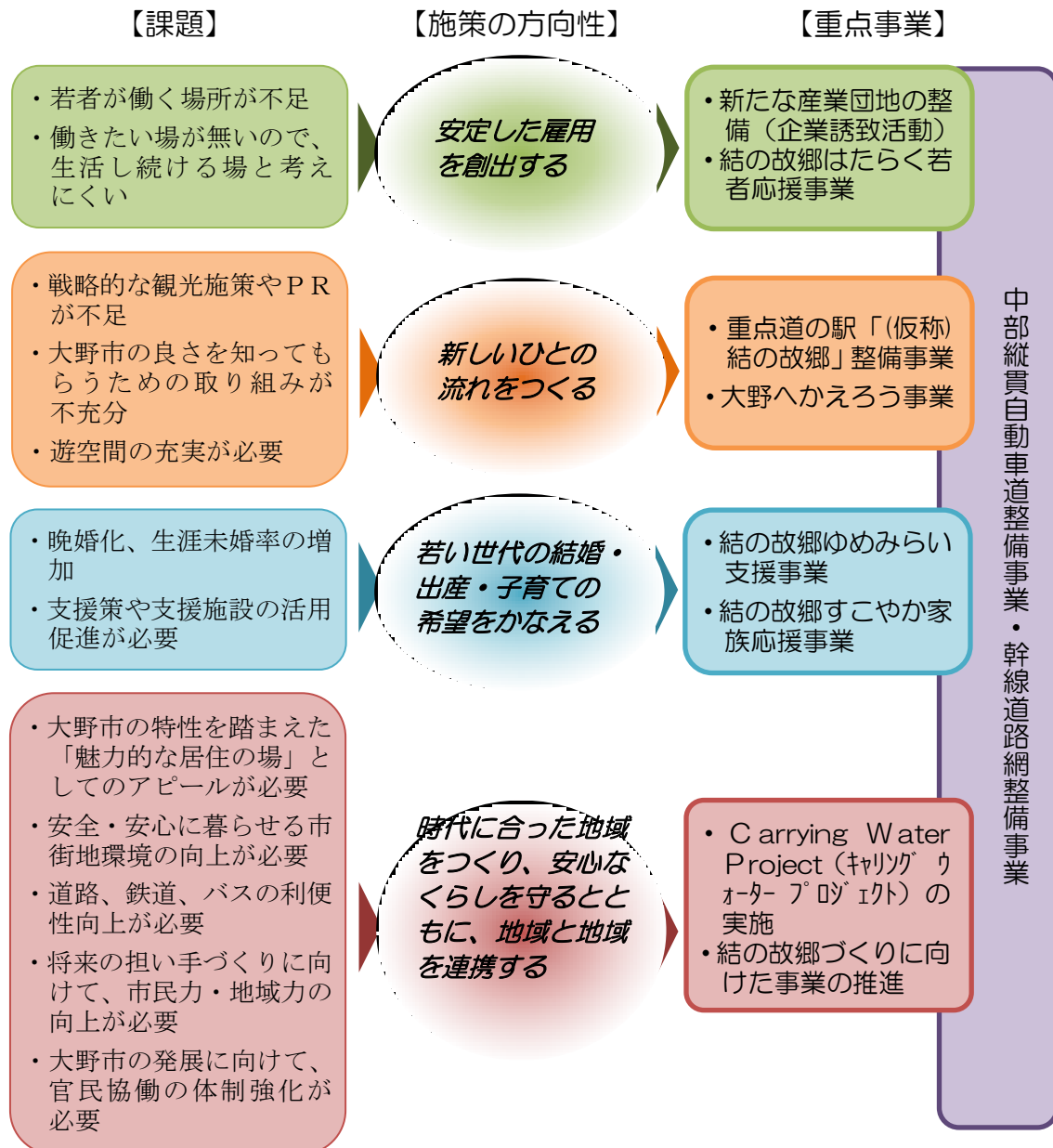
- ・出会いの場の創出
- ・子育て支援（経済的支援など）の実施
- ・子どもを産み育てるための不安の解消

●「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

- ・人口減少の抑制に向けた取り組みの強化
- ・大野市全体の発展に向けた活動の実施や体制づくり
- ・市民力・地域力の向上
- ・高齢者が安心して暮らせる環境の整備
（支援施設、生き甲斐づくり、居場所づくりなど）
- ・危険な空き家の撤去
- ・幹線道路の整備による交通利便性の向上
- ・生活道路や公園などの基盤施設の整備
- ・バス運行の充実
- ・雪に強いまちづくり
- ・豊かな自然環境の保全
- ・買い物環境の充実
- ・大野市特有の伝統技術・自然・歴史を活かした商品・サービス開発に対する支援の実施

(3) 目指すべき方向性

これまでの取り組みや市民ニーズ、現状と課題などを踏まえて、今後、目指すべき方向性を以下のように考えます。



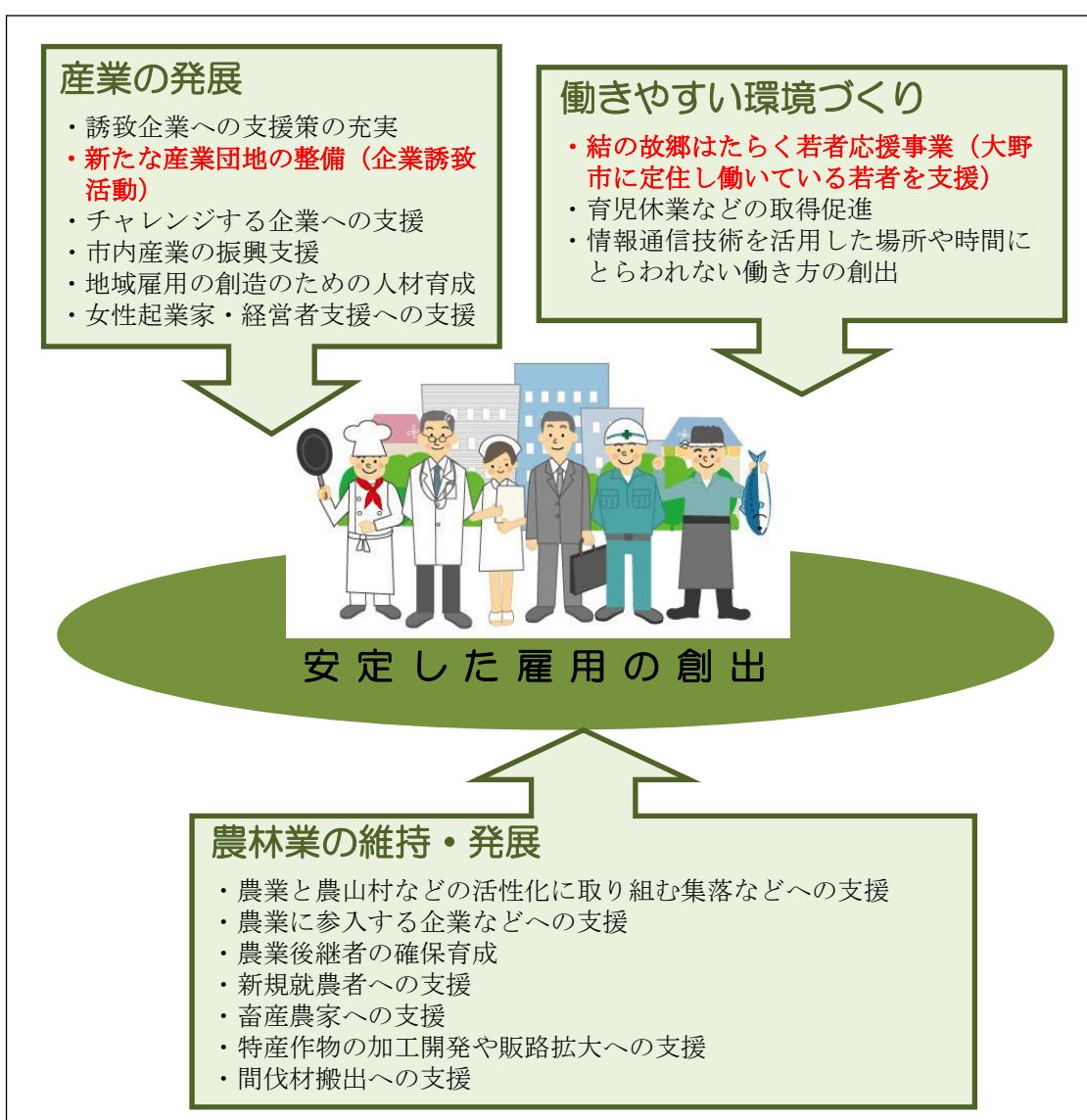
3. 今後の施策の方向

(1) 安定した雇用を創出する

雇用の創出は、地域の活力の基礎となる重要課題です。中部縦貫自動車道の完成を見据え、積極的な企業誘致を展開するとともに、大野市の地域資源を生かした産業の発展や農林業の維持・発展、働きやすい環境づくりを推進します。

《基本目標》

数値目標指標	H26基準数値	R2目標数値
新規企業誘致による雇用創出数	—	77人
一般職業紹介による就職率 ^{※6}	50.22%	52.75%



《基本的方向》

■基本的方向1：産業の発展

産業界全体の発展や人口増加に資することを目的として、中部縦貫自動車道の効果を生かせる企業や若年層の関心が高い情報技術関連企業などを積極的に誘致するとともに、関係機関との協議の上、新たな産業団地の候補地を選定し、整備します。

また、大野市の地域資源を活用して新分野への進出や新技術の開発などを行う事業者に対して支援するほか、産業の活力を支える基盤は人であることから、各分野の産業を担う人材、特に、若年層の関心が高い情報技術関連産業の技能を持った人材を育成します。

さらに、観光客の増加により拡大しつつある雇用創出の機運を確かなものとするため、実践型地域雇用創造事業により、地域資源の魅力と観光客のニーズを的確に捉えた商品開発、それらを効果的に発信できる人材の育成などを行います。

その他、女性ならではの視点、ニーズによって生まれた新しいビジネスが増加している中で、自分の趣味や特技を生かしたビジネスを興す女性を支援します。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
大野市企業立地助成金件数（累計）	—	6 件
産業団地の整備（累計）	—	1 件
チャレンジ支援企業数（累計）	9 企業	50 企業
人材育成セミナーの開催などによる就業者数（累計）	—	128 人
女性起業家・経営者支援制度活用件数（累計）	1 件	10 件

主な事業
◆誘致企業への支援策の充実 ◆新たな産業団地の整備（企業誘致活動） ◆チャレンジする企業への支援 ◆市内産業の振興支援 ◆地域雇用の創造のための人材育成 ◆実践型地域雇用創造事業の実施 ◆女性起業家・経営者への支援
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策5 共に力を合わせるふるさとづくり 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策29 雇用の確保と働く環境の整備

■基本的方向2：働きやすい環境づくり

新卒者の市内での就労・居住を促進するとともに、育児や介護など事情により就業が困難な人のために、情報通信技術を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができる環境の整備を促進します。

また、仕事と育児を両立できるよう、女性が働きやすい職場環境を整備します。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
満17歳時と比較して満22歳時の人口比率	80%	83%
育児休業取得支援制度を活用した中小企業者数（累計）	4企業者	25企業者
ウェブ・グラフィック系講座開講数（累計）	—	5講座

主な事業
◆結の故郷はたらく若者応援事業（大野に定住し働いている若者を支援） ◆育児休業などの取得促進 ◆情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない働き方の創出
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策5 共に力を合わせるふるさとづくり 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策28 定住の促進 基本施策29 雇用の確保と働く環境の整備

■基本的方向3：農林業の維持・発展

誰もが住みたくある活力のある農山村集落の実現を図るため、集落自らが活性化に向けて積極的に行う取り組みに対して支援します。

また、農林業の維持・発展に向けて、企業の新規参入や新規就農者への支援、後継者の育成などを推進していくとともに、耕作農家と畜産農家の連携を促進することによって、畜産農家の施設整備支援や後継者の育成を図ります。

その他、特産作物生産の担い手となる小規模農家に対する機械や施設整備などへの支援を継続することで、省力化による生産振興を図ります。

これらに加え、森林の有する多面的機能が効果的に発揮できるよう、間伐などの森林施業を効率的に進めるための集約化を促進します。

また、木材の地産地消のための地元木材の活用を推進し、木質バイオマス発電の主燃料となる間伐材などの積極的な搬出により、山林所有者に利益還元ができるよう支援します。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
活性化に取り組む集落数の累計	18 集落	30 集落
農業への参入企業数	—	1 企業
新規就農者数の累計	22 人	30 人
畜産農家数	10 戸	10 戸
農産物加工商品の開発品目数	—	20 品目
間伐材搬出材積量	12,793 m ³	34,000 m ³

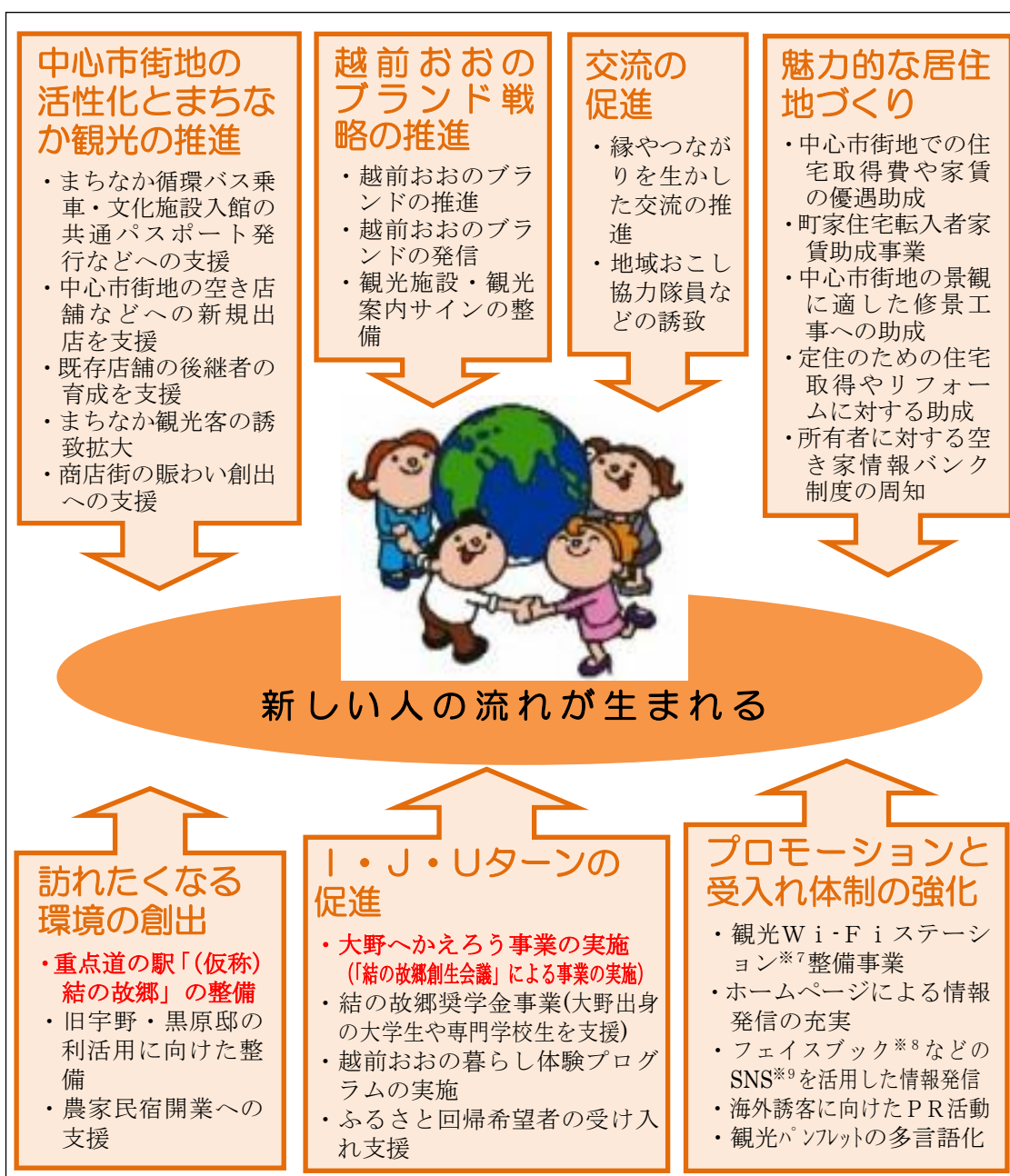
主な事業
◆農業と農山村などの活性化に取り組む集落などへの支援 ◆農業に参入する企業などへの支援 ◆農業後継者の確保育成 ◆新規就農者への支援 ◆畜産農家への支援 ◆特産作物の加工開発や販路拡大への支援 ◆間伐材搬出への支援
総合計画上の位置付
第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策23 越前おおの型農業の推進 基本施策24 森林整備の推進と持続可能な林業の振興 基本施策29 雇用の確保と働く環境の整備

(2) 新しいひとの流れをつくる

越前おおのブランドの推進、中心市街地の活性化など大野市の魅力を高めることにより新しい人の流れをつくり、地域の活性化、移住の促進を図ります。

《基本目標》

数値目標指標	H26基準数値	R2目標数値
観光入込客数	193万人	220万人
地域ブランド調査による 大野市の魅力度	魅力度829位	魅力度400位以内



《基本的方向》

■基本的方向1：越前おおのブランド戦略の推進

人口の社会増に向けて、大野市の「認知度」と「魅力度」を向上させ、市民が自ら誇れるまちにすることが課題となっています。

そのため、市全体で越前おおの総ブランド化の取り組みを進め、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など大野市が誇る魅力ある資源の全てを越前おおのブランドとして磨き上げるとともに、大野市全体としてのイメージを市内外にアピールすることで市民が地域に自信を持つとともに、市民所得の向上につなげていきます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
地域ブランド調査による大野市の魅力度	魅力度 829 位	魅力度 400 位以内
観光入込客数	193 万人	220 万人

主な事業
◆越前おおのブランドの推進 ◆越前おおのブランドの発信 ◆観光施設・観光案内サインの整備
総合計画上の位置付
第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策22 越前おおのブランド戦略の推進 基本施策26 戦略的な観光の推進

■基本的方向2：中心市街地の活性化とまちなか観光の推進

中心市街地では、人口減少、高齢化とともに、各個店の事業主の高齢化、後継者不足の進行、空き地や空き家の増加などの問題が山積しています。そのため、各個店による商品開発への支援を通じて、魅力ある人・モノ・きっかけの提供などを促進することで、市街地に足を運ぶ機会の充実を図るとともに滞在時間を延ばす取り組みを推進します。

また、「天空の城 越前大野城」への注目度を高め、さらに周辺に人の流れを拡大していくため、城下町のまち並みや名水スポットなどの散策、文化施設や酒蔵などの周遊を中心としたまちなか観光を推進します。加えて、観光客へのサービスの向上やリピーターの確保のため、案内サインの整備を進めるとともに、観光客を快くお迎えするもてなしの心を持った人材を育成し、観光ボランティアなどの充実を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
歩行者通行量（秋）	4, 233人	5, 000人
まちなかの観光客入込数	65.9万人	88万人

主な事業
◆まちなか循環バス乗車・文化施設入館の共通パスポート発行などへの支援 ◆中心市街地の空き店舗などへの新規出店を支援 ◆既存店舗の後継者への育成を支援 ◆まちなか観光客の誘致拡大 ◆商店街の賑わい創出への支援
総合計画上の位置付
第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策25 中心市街地の活性化 基本施策26 戦略的な観光の推進

■基本的方向3：交流の促進

交流人口の増加に向けて、歴史的、地理的、経済的などの縁やつながりを生かして、より新たな地域へと交流の進展を図ります。

また、地域おこし協力隊員の誘致などを通して、人と情報の新しい動きを活発化させます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
姉妹都市など交流に関する協定などを締結している自治体数	13自治体	15自治体
地域おこし協力隊などの隊員数	1人	6人

主な事業
◆縁やつながりを生かした交流の推進 ◆地域おこし協力隊員などの誘致
総合計画上の位置付
第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策23 越前おおの型農業の推進 基本施策27 地域間交流の推進

■基本的方向4：魅力的な居住地づくり

居住人口の増加に向けて「選ばれる居住地」としての環境を高めるため、中心市街地への転入者などに対して、住宅取得費や家賃の助成などの居住支援を行います。また、建築物の修景を促進し、城下町らしい景観づくりを図ることで住環境を改善します。

また、空き家情報バンク制度を周知することによって、大野暮らしの良さをPRするとともに、空き家を有効活用しながら市内への転入を促進していきます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
中心市街地での住宅取得に対する助成及び町家住宅の家賃減額措置の累積件数	12件	32件
町家住宅の転入者世帯累積数	—	11世帯
修景工事助成累積件数	30件	53件
定住のための住宅取得やリフォームに対する助成の累積件数	201件	380件
空き家情報バンク延べ登録数	17件	53件

主な事業
◆中心市街地での住宅取得費や家賃の優遇助成 ◆町家住宅転入者家賃助成事業 ◆中心市街地の景観に適した修景工事への助成 ◆定住のための住宅取得やリフォームに対する助成 ◆所有者に対する空き家情報バンク制度の周知
総合計画上の位置付
第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策18 快適な住宅の整備 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策28 定住の促進

■基本的方向5：訪れたくなる環境の創出

中部縦貫自動車道の全線開通を見据え、全国に誇れる魅力ある「越前おおの」の実現に向け、「結の故郷 越前おおの」の様々な地域資源に関する情報を的確に提供し、積極的に市内への誘客を図る「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設として、重点道の駅「(仮称) 結の故郷」の整備に取り組みます。

また、道の駅「九頭竜」や市外の「道の駅」とも連携を図り、市内を周遊できる環境づくりに取り組みます。

観光客が農家などで、地域の郷土料理や自然、農作業などを楽しむ体験・滞在プログラムの企画や開発に対して支援します。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
重点道の駅「（仮称）結の故郷」完成	—	完成
文化施設（旧宇野・黒原邸）利用者数	—	2 万人
農家民宿開業数の累計	1 軒	2 軒

主な事業
◆重点道の駅「（仮称）結の故郷」の整備 ◆旧宇野・黒原邸の利活用に向けた整備 ◆農家民宿開業への支援
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策2 豊かな心を育てる文化力の育成 第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策14 中部縦貫自動車道の整備促進 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策25 中心市街地の活性化 基本施策26 戦略的な観光の推進

■基本的方向6：I・J・Uターンの促進

事情によって市外に進学・就職する人たちに、「将来は大野へかえろう」と思ってもらうための取り組み・支援を進めていきます。

また、都市圏に住む田舎暮らし希望者に対し、大野市の魅力を知ってもらう交流体験の実施、定住に向けての準備や検討への支援を行います。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
満17歳時と比較して満22歳時の人口比率（再掲）	80%	83%
奨学金利用で当該年度に卒業したもののうち帰郷した割合	—	50%
ふるさと定住者件数の累計	34件	102件

主な事業
◆大野へかえろう事業の実施（「結の故郷創生会議」による事業の実施） ◆結の故郷奨学金事業（大野出身の大学生や専門学校生を支援） ◆越前おおの暮らし体験プログラムの実施 ◆ふるさと回帰希望者の受け入れ支援
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策1 結の心あふれる人づくり 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策26 戦略的な観光の推進 基本施策28 定住の促進 第6章 基本構想実現に向けた行政運営 基本施策35 人口減少対策と地方創生の推進

■基本的方向7：プロモーションと受入れ体制の強化

日本全国で地方創生、人口減少対策が進められる中、大野市においても知名度の向上や越前おおのブランドのPRに向けて、情報発信を強化していく必要があります。

そのため、ホームページの充実やSNSの活用、パンフレットの作成、更新などにより、越前おおのブランドや観光、イベントなどの情報発信を推進していきます。

また、訪日外国人旅行者の受入れに向けて環境整備を促進するとともに、近隣地域との広域連携による面的優位を活用し、訪日外国人旅行者の誘客活動に取り組めます。

重要業績評価指標（KPI）	H26基準数値	R2目標数値
フリースポット施設整備数	—	15箇所
HPアクセス 年度アクセス数	305,916件	1000,000件
結の故郷 越前おおの公式フェイスブック年度平均いいね※ ¹⁰ 数	825いいね	1,900いいね
外国人宿泊者数	—	3,000人
多言語化されたパンフレット数	1	5（英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語、仏語）

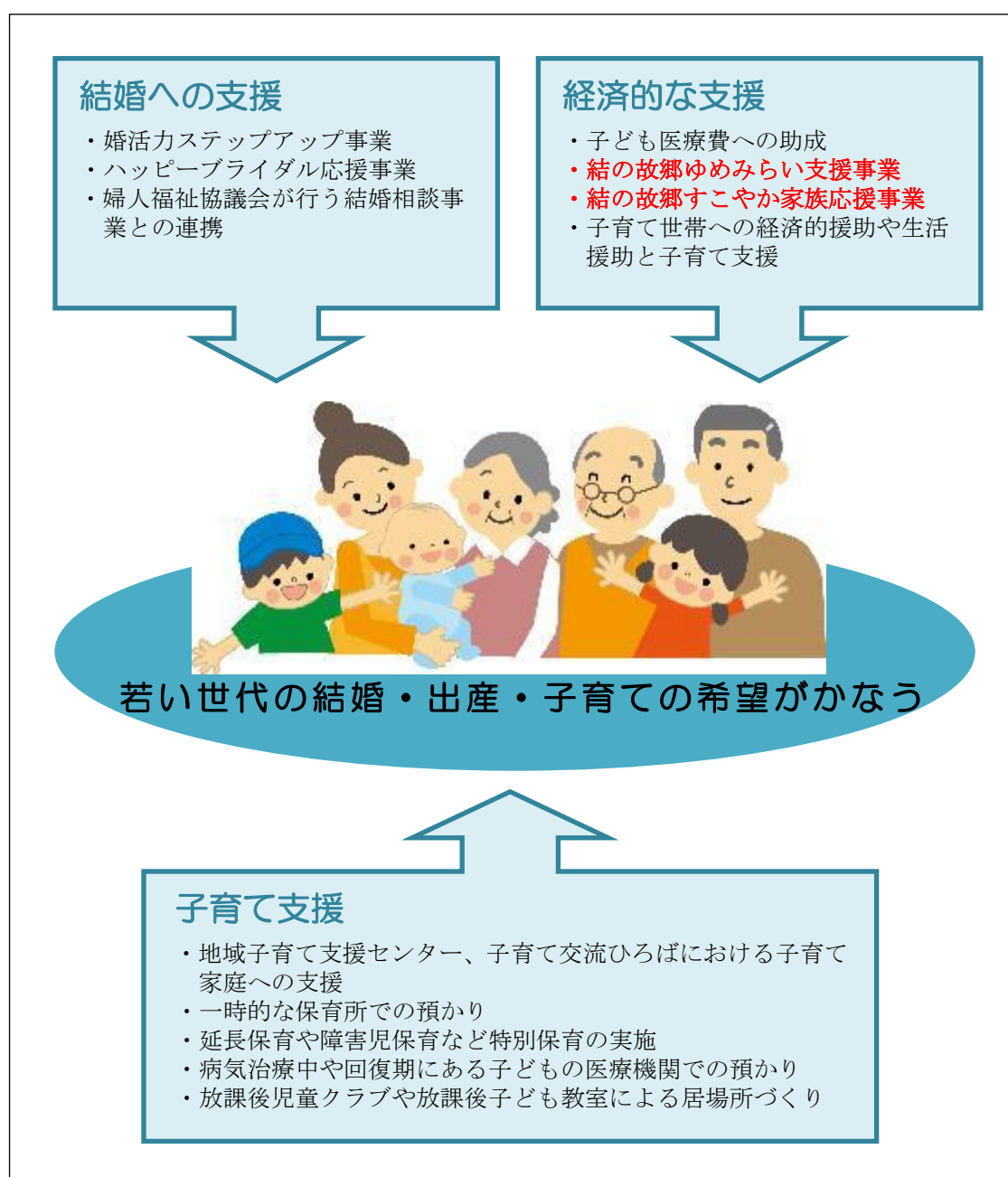
主な事業
◆観光W i - F i ステーション整備事業 ◆ホームページによる情報発信の充実 ◆フェイスブックなどのSNSを活用した情報発信 ◆海外誘客に向けたPR活動 ◆観光パンフレットの多言語化
総合計画上の位置付
第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策19 高度情報化の推進 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策26 戦略的な観光の推進 第6章 基本構想実現に向けた行政運営 基本施策36 市民総参加・協働型の市政の推進 基本施策37 情報化社会に対応した市政の推進

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い世代の結婚への支援を積極的に行うとともに、結婚から、妊娠・出産、子育てとそれぞれの段階できめ細やかな応援を行うことで、希望を持ち、安心して生活できる地域の実現を目指します。

《基本目標》

数値目標指標	H26基準数値	R2目標数値
合計特殊出生率※11	1.62	1.66
婚姻率	3.9	4.3



《基本的方向》

■基本的方向1：結婚への支援

近年、日本人の晩婚化が進むとともに、生涯未婚率も上昇しています。大野市においても同様の傾向がみられるため、結婚をするために必要な活動、いわゆる婚活への支援が必要となっています。

そのため、婚活力ステップアップ事業、ハッピーブライダル応援事業に加え、新たな事業を展開していくとともに、県が実施する結婚支援事業などについても広く情報提供を行い、出会いの機会の拡大を図ります。

また、婦人福祉協議会が行う「結婚相談事業」との連携により、結婚を希望する人が安心して相談できる体制づくりを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
婚活セミナー参加者数	187人	230人（R1）
ハッピーブライダル応援事業申請件数	9件	15件（R1）
婦人福祉協議会のイベントなど共催回数	2回	2回（R1）
若者の自然な出会いを創出する事業数	—	6

※平成30年度の人口減少対策会議における議論を基に事業を見直しました。

主な事業
◆婚活力ステップアップ事業 ◆ハッピーブライダル応援事業 ◆婦人福祉協議会が行う結婚相談事業との連携
総合計画上の位置付
第2章 共に思いやり支え合う安全で安心なまち 基本施策8 子どもと子育て家庭への支援

■基本的方向2：経済的な支援

少子化の一因として、経済的な負担による産み控えが考えられます。

そのため、「結の故郷ゆめみらい支援事業」及び「結の故郷すこやか家族応援事業」では大野市内に定住している若年世帯や子育て世帯に商品券の交付をするなど、様々な経済的支援を行い、出生数の向上を目指します。

また、不妊症に関する治療費を助成することにより、妊娠を希望する夫婦への経済的支援を行います。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
婚姻率※12	3.9	4.3
出生率※13	6.3	6.7
児童手当受給対象児童数	3,480人	3,500人

主な事業
◆子ども医療費への助成 ◆結の故郷ゆめみらい支援事業 ◆結の故郷すこやか家族応援事業 ◆子育て世帯への経済的援助や生活援助と子育て支援 ◆特定不妊治療費助成事業
総合計画上の位置付
第2章 共に思いやり支え合う安全で安心なまち 基本施策8 子どもと子育て家庭への支援

■基本的方向3：子育て支援

少子化の急速な進行や核家族化の進展、地域のつながりの希薄化など、子ども・子育てを取り巻く環境は、近年大きく変化しており、将来的に社会・経済への深刻な影響を及ぼすことが懸念されています。

保護者が子育てについての第一義的責任を有することを前提としつつ、幸せに結婚し、安心して産み、心豊かで健やかに子どもが育ち、そして地域全体で子育てを応援し、人と人との繋がりを大切にする「結の心」で支え合いながら、子育てができるまちづくりの実現が必要です。

重要業績評価指標（KPI）	H26基準数値	R2目標数値
地域子育て支援センター利用率	91%	100%
一時預かり実施率	100%	100%
延長保育実施率	100%	100%
病児・病後児デイケア収容可能児童数（1日当たり）	4人	4人
全学校区での放課後など児童クラブ・放課後子ども教室の実施率	100%	100%

主な事業
◆地域子育て支援センター、子育て交流ひろばにおける子育て家庭への支援 ◆一時的な保育所での預かり ◆延長保育や障害児保育など特別保育の実施 ◆病気治療中や回復期にある子どもの医療機関での預かり ◆放課後児童クラブや放課後子ども教室による居場所づくり
総合計画上の位置付
第2章 共に思いやり支え合う安全で安心なまち 基本施策8 子どもと子育て家庭への支援

(4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

大野市の特色を生かしながら連携のまちづくりを推進し、安全安心なまち、暮らしやすい環境の整備、市民力・地域力の向上を図ります。大野市が誇る「水」を「水の聖地＝大野」として、国内外に発信するCarryingWater Projectを推進します。

《基本目標》

数値目標指標	H26基準数値	R2目標数値
市民の名水・御清水を大野市の誇り・象徴と考える人の割合	86.4%	90%
自主防災組織の結成率	93%	100%



《基本的方向》

■基本的方向1：連携のまちづくりの推進

「Carrying Water Project (CWP)」は「水への感謝」の思いを、イベントや行事などで伝えるとともに、世界の中で安全な飲料水が供給されていない地域を支援することで、市民の「水の聖地＝大野」という誇りと自信を育成、世界に向けて情報発信しブランド化を目指していきます。また、水や自然、健康などをテーマとする企業の誘致や交流人口の増加に寄与するとともに、移住定住に繋げる人口減少対策の一大プロジェクトとして進めていきます。

これに加え、「人口減少対策」「地方創生」「災害対策」「少子化・高齢化対策」などあらゆる行政課題に対応していくため、市と市民、市民活動団体や地域団体、さらにはNPO法人などと対等な立場で手を組み、それぞれの特性を生かした市民総参加型・協働型の市政を進めていきます。

その他、高齢化の進展に対応した農山村の近隣集落との互助精神を基本とする自主的な取り組みへの支援など、集落機能の維持向上に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	H26 基準数値	R2 目標数値
Carrying Water Project に対する民間の年間協力件数	—	200 件 (R1)
協働事業提案団体数	2 団体	5 団体
支援活動実施回数の累計	—	30 回

※CWPによる東ティモール民主共和国への支援は、平成30年度をもって完了しました。

主な事業
◆ Carrying Water Project (CWP) の実施 ◆ 市民活動団体、NPO法人などとの協働事業の展開 ◆ 集落の連携への支援
総合計画上の位置付
第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策23 越前おおの型農業の推進 第6章 基本構想実現に向けた行政運営 基本施策35 人口減少対策と地方創生の推進 基本施策36 市民総参加・協働型の市政の推進

■基本的方向2：安全安心なまちの形成

近年、全国各地で頻発する自然災害の脅威は、住民の生命・身体及び財産を脅かし、これらの災害を踏まえた国土強靱化に資する取り組みの推進が強く求めら

3. 今後の施策の方向 (4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

れています。

そのような中で、自助^{*15}・共助^{*16}の考え方を浸透させながら、地域が総力を結集して地域防災力を充実強化していく必要があります。そのため、組織体制の形成・強化やシステムの構築などを推進していきます。

また、農作物の鳥獣被害の防止のため、地域ぐるみによる電気柵やネット柵などの設置の支援を行うとともに、恒久柵の設置などに取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
自主防災組織の結成率	93%	100%
高齢世帯への防火訪問世帯数	150世帯	1,800世帯
越前おおの結の見守り活動に関する協定を締結した事業所数	13事業所	21事業所
地域での除雪支援事業に取り組んだ地区数	115地区	160地区
防護柵の延長	163,000m	181,000m

主な事業
◆自主防災組織の育成と活動支援 ◆女性消防団員による高齢者世帯への防火訪問・防災指導 ◆越前おおの結の見守り活動の推進 ◆地域ぐるみによる高齢者宅などの屋根雪下ろしや玄関先除雪への支援 ◆地域ぐるみでの有害鳥獣対策の支援（電気柵やネット柵などの設置）
総合計画上の位置付
第2章 共に思いやり支え合う安全で安心なまち 基本施策10 共に支え合う地域福祉の推進 基本施策11 災害に強いまちづくりの推進 第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策21 雪に強いまちづくり 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策23 越前おおの型農業の推進

■基本的方向3：暮らしやすい環境の整備

人と人とのつながりを強め、ふるさとを愛する心を育てるため、多様な地域活動を支援・推進していきます。

また、高齢者や学生などの交通制約者の日常生活や観光客の移動手段として、公共交通は必要不可欠であるため、市営バスや広域バス、JR越美北線について、

3. 今後の施策の方向 （４）時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

市民ニーズに応じた効率的な運行を行い、市民の豊かな暮らしを支える持続可能な公共交通体系を構築していきます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
バス・乗合タクシーの年間利用者数	35,425人	29,700人
広域路線バスの年間利用者数	284,451人	225,000人
越美北線の年間乗客数	336,378人	343,000人

※大野市地域公共交通網形成計画（平成31年3月策定）の目標値を基に設定しています。

主な事業
◆大野市内路線バス・乗合タクシーの運行 ◆広域路線バス運行への支援 ◆越美北線の利用促進
総合計画上の位置付
第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策20 公共交通手段の確保

■基本的方向4：特色を生かしたまちづくり

「結の故郷創生会議」で実施した調査・研究結果を踏まえて、人口減少対策事業を進めていきます。

その一環として、大野市の特色を生かした活動を実施します。例えば、伝統的な食文化の継承活動を伝統文化伝承事業として認証し支援することにより、後世に伝承するとともに、市内外に「結の故郷越前おおの」の魅力として情報発信していきます。

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
Carrying Water Projectに対する民間の年間協力件数（再掲）	—	200件（R1）
地域ブランド調査による大野市の魅力度（再掲）	魅力度829位	魅力度400位以内
満17歳時と比較して満22歳時の人口比率（再掲）	80%	83%
結の故郷小学生ふるさと芸能発表団体数	6団体	7団体
デジタル教科書が配備された学年における授業日数に対するICT機器を活用した日数の割合	—	100%

主な事業
◆ Carrying Water Project (CWP) の実施 (再掲) ◆ 越前おおのブランドの推進 (再掲) ◆ 「結の故郷創生会議」による事業の実施 ◆ ふるさと文化創造事業 (結の故郷ふるさと学習交流会・結の故郷みこしダンスパフォーマンス) の推進 ◆ 結の故郷小学生ふるさと芸能発表会の開催 ◆ 伝統文化伝承団体の認証と取り組みを支援 ◆ 結の故郷学校 ICT 推進事業
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策1 結の心あふれる人づくり 基本施策2 豊かな心を育てる文化力の育成 第3章 誰もが快適で暮らしやすいまち 基本施策19 高度情報化の推進 第4章 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち 基本施策22 越前おおのブランド戦略の推進 第6章 基本構想実現に向けた行政運営 基本施策35 人口減少対策と地方創生の推進

■基本的方向5：市民力・地域力の向上

大野市では、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を掲げ、すべての市民が優しく、賢く、たくましい大野人となるよう、また、古から培われてきた結の心を醸成するため、家庭、学校、地域のそれぞれの教育力を活用しながら様々な施策に取り組んでいます。

生涯学習においては、市民一人一人が自己を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域の中で活かすことのできる生涯学習の仕組みづくりが大切であり、公民館活動では、地域を担う人材として特に青年活動を活性化する必要があります。

また、ふるさと教育を通じて、ふるさとへの愛着と誇りを養い、ふるさとの将来に対する使命感を醸成するとともに、心豊かな青少年育成のため、家庭教育の重要性の啓発と、地域の子どもは地域で育てるという意識の高揚を図る必要があります。

3. 今後の施策の方向 （4）時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	R2 目標数値
住民が主体的に地域づくりを実施した事業数	36 事業	50 事業
青年活動回数	17 回	20 回
むかし語りの実施回数	30 回	40 回
団体・市民に対する国旗を掲げる運動の啓発回数	15 回	25 回
世代間交流活動の実施回数	8 回	90 回

主な事業
◆結の故郷づくりに向けた事業の推進 ◆地域づくり活動の支援（結の故郷づくり交付金事業、世代間結づくり事業） ◆青年活動への支援 ◆ふるさとに関する教材を用いた学習機会の提供 ◆国民の祝日に国旗を掲げる運動の推進 ◆世代間交流や子どもの自然体験活動の充実
総合計画上の位置付
第1章 優しく賢くたくましい大野人が育つまち 基本施策1 結の心あふれる人づくり 第6章 基本構想実現に向けた行政運営 基本施策35 人口減少対策と地方創生の推進

4. 重点事業

4. 重点事業

(1)「安定した雇用を創出する」関連

① 新たな産業団地の整備・企業誘致活動

目的	企業を誘致することにより、雇用の場の確保、新規雇用の創出を図ります。
概要	県や関係団体などと連携を密にし、大野市が持つ地域資源などの情報を県内外の企業などへ提供します。 中部縦貫自動車道開通の効果を生かせる企業や若年層の関心が高い情報技術関連企業などを積極的に誘致します。 関係機関との協議の上、新たな産業団地の候補地を選定し、整備します。
期待される効果	雇用の場の確保、創出とともに経済的な波及効果が期待されます。
K P I	大野市企業立地助成金件数（累計）：6 件 産業団地の整備（累計）：1 件

4. 重点事業

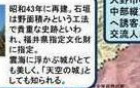
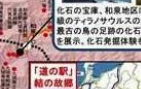
② 結の故郷はたらく若者応援事業

目的	就職した満 21 歳までの若者に対して、はたらく若者定住奨励金を交付し、大野市内に継続して定住することを支援するものです。
概要	○対象者 定職に就き市内に定住した原則満 18 歳から 21 歳までの者 ・中卒者や高等学校中退者も対象とします。 ・雇用形態が常勤雇用であること。 ○交付金額 一人につき最大 480,000 円を 4 回（4 年）に分割して交付 ・1 年に 120,000 円交付。 ○交付期間 高等学校卒業後を始期とする 4 年間（原則：満 18 歳から 21 歳） ※例外：定時制高校（4 年制）卒業者 ・中卒者、高等学校中退者は満 18 歳に達した年から 4 年間を対象とします。 ○基準日 毎年 1 月 1 日 ・毎年基準日以降に、市長が定める期間内に必要書類を準備して申請すること。 ○交付決定 結の故郷はたらく若者定住奨励金交付要綱に定める、結の故郷はたらく若者定住奨励金交付審査委員会で決定します。
期待される効果	定職に就き市内に定住した若者への支援をきっかけに、結婚、出産へとつなげ、人口減少に歯止めが掛かることが期待されます。
KPI	満 17 歳時と比較して満 22 歳時の人口比率：80% → 83%

4. 重点事業

(2)「新しいひとの流れをつくる」関連

① 重点道の駅「(仮称) 結の故郷」整備事業

目的	一般的な「道の駅」の目的である、地元の名物や観光資源を活かして多くの人々を迎えることによって、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上などを実現することに加え、国家的な成長戦略の強力なツール「重点道の駅」として、経済の好循環を地方に行き渡らせるための取り組みの実施を目的とするものです。
概要	○中部縦貫自動車道大野東ICの真正面に位置し、越前大野城や化石等の地域資源を情報発信することで、ここを出発点として市内の回遊を促す「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核として整備 ○朝市等の地域情報や地域の観光案内、化石発掘等の体験や四季を通じた山歩き情報等を総合的に提供し、シャトルバス等での市内への誘客、交流人口の拡大を図ることで地域を活性化 <地方創生拠点としての機能> ゲートウェイ型  昭和43年に再建。石造は野宮積みという工法で貴重な交差点といわれ、後身県指定文化財に指定。崖面に浮かぶ山城としても美しく、「真空の城」としても知られる。  大野市のゲートウェイとして整備し、中部縦貫自動車道の利用者を市内へ誘客、体験・交流機会を提供し、交流人口を拡大  越前県立総合博物館 消費税込としては日本で初めて全県産品が並ぶ大規模な売場を有する約40坪以上の恐竜博物館をはじめとする千数百点もの蔵本がある。  和泉郷土資料館 化石の宝庫。和泉地区にあり、世界最古級のアンモナイトの産出地。日本最古の鳥の足跡の化石など多数の化石を展示。化石発掘体験も実施。  化石発掘体験  シャトルバス 「道の駅」結の故郷  寺町通り・七間橋 城下町大野を象徴する町並み約400年以上の歴史を持つ「朝市」が楽しめる。  道の駅 「道の駅」結の故郷  道の駅 「道の駅」結の故郷  道の駅 大野市主とも呼ばれ、越前市内では唯一の日本百名山に選ばれた名峰。  道の駅 南海トラフ巨大地震等の発生時に被害が少ないと想定される日本海側から近畿圏・中部圏首都圏の後方支援を行える広域防災拠点の機能を整備  道の駅 後方支援のイメージ <提案の先駆性・ポイント> ■大野市のゲートウェイとして地域全体の観光案内、地域資源を活かした体験・交流機会を提供し、市内への誘客及び回遊性向上を図る観光周遊拠点 ■首都圏直下型地震や南海トラフ巨大地震発生時に、近畿圏・中部圏・首都圏の後方支援が行える広域防災拠点の機能を整備(防災計画(改定中)で、道の駅を活動拠点として機能) <実施内容> ※イメージ図であり、今後、変更があります。 ○地域の観光案内、レンタル自転車等の受付、化石発掘等の体験や荒島岳をはじめとする山歩きなど市内全域の情報を発信する総合的なインフォメーションスペースの設置 ○市内や日本百名山である荒島岳登山口に誘客・回遊できるシャトルバスやレンタル自転車を運営 ○ICの真正面という地の利を活かし、高速バスの停留所を設置 ○地域移住に必要な情報やふるさと納税に関する情報の提供 ○地元生産者からの調達による雇用の創出 ○非常用電源装置、太陽光発電、ヘリポート、備蓄施設の整備、救援物資の集積・配送の実施
期待される効果	中部縦貫自動車道に「まるごと道の駅」の核となる施設として「重点道の駅」を整備し、越前おおのの魅力ある様々な地域資源に関する情報発信を行うとともに、いつでも最寄りのインターチェンジから自家用車などで市内へ入ってくることを可能とすることによって、積極的に市内への誘客を図る効果が期待されます。
KPI	重点道の駅「(仮称) 結の故郷」の整備：令和2年度完成

4. 重点事業

② 大野へかえろう事業

目的	おもに高校生を対象に、地域の魅力を知り、大人とのつながりを築き、地域で未来を切り開く術を学ぶ機会を創り人材の育成に繋がります。
概要	①大野ポスター展 対象：高校生や大学生等 概要：高校生等が大野の元気な店舗や企業を取材し、プロのクリエイターに指導を受けながら（ワークショップ）、ポスターを制作します。 制作したポスターを店舗等に掲示し、コンクールを実施します。 これにより、高校生等が大野の魅力を知り大人とつながり、また、買い物客や観光客の増加も図ります。 ②大野人の講演 対象：高校生や若年層 概要：大野に居住している若者に対し、大野で頑張っている大人が講演し、大野の魅力を伝えることで、大学進学等で大野から転出しても、ゆくゆく大野へ帰ってきたくなくなるような意識の醸成と、将来大野を担う人材を育成します。 大野へかえろう
期待される効果	住民自身が大野の魅力を再認識することで、まちの活性化につながるとともに、子供たちに大野の良さを伝え、将来のUターン促進、さらには、将来の発展の担い手としての人材育成の土壌が作られる事が期待されます。
KPI	満17歳時と比較して満22歳時の人口比率：80% → 83%

4. 重点事業

(3)「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」関連

① 結の故郷ゆめみらい支援事業

② 結の故郷すこやか家族応援事業

目的	若年世帯や子育て世帯を経済的に支援し、子育て世帯の市外への流出に歯止めを掛けるとともに、市外からの子育て世帯の移住を促進するものです。
概要	①結の故郷ゆめみらい支援事業 ○対象者（結婚、出生から1年目の者） 当該年度に婚姻、出生があつた世帯であり、以下の要件に該当するもの。 ②結の故郷すこやか家族支援事業 ○対象者 前年度又は前々年度に婚姻、出生があつた世帯であり、以下の要件に該当するもの。 ○要件 ・本市に定住の意思を有している。 ・申請者、配偶者に市税の滞納がない。 ・婚姻については、婚姻時の妻の年齢が45歳未満である。 ○事業内容 申請に基づき、市内で使用できる10万円分の商品券（結の故郷すこやかゆめみらい応援券）を交付します。
期待される効果	子育て世帯の市外への流出に歯止めが掛かるとともに、市外からの子育て世帯の移住促進が期待されます。
KPI	①婚姻率：3.9 → 4.3 ②出生率：6.3 → 6.7

(4)「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」関連

① Carrying Water Project (キャリグ ウォーター プロジェクト)

目的	水への感謝という思いを「運び・伝える」ことで、市民の「水の聖地＝大野」という誇りと自信を育て、大野の良さを再認識し、大野で暮らしたいと思える要素を明確にします。
概要	①-名水マラソン- Run for me. Run for someone. 対象：市民及び名水マラソン参加者 概要：水不足に悩む海外の子どもたちに、名水マラソンや水に関係するイベントなどの参加者たちが寄付を行うことで、海外の子どもたちと井戸の距離が近くなる仕組みを作り世界に発信します。 2015年度 キックオフとして第51回名水マラソンを通じ理念を発信します。 2016年度 世界の中で安全な飲料水が供給されていない地域に井戸や水供給施設を整備するための費用を支援します。 ②-情報発信を行うことで共鳴する仲間づくり、支援の輪を広げる 対象：理念賛同者（国内外の個人、事業者） 概要：Webサイト、メディアへのプロモーションを活用した仲間づくり。理念に賛同する仲間を増やし、国内外にドネーション（援助）の輪を広げます。 ③-市行事との連携- 対象：市民、出身者、関係者 概要：越前おおの冬物語など市民に定着している水に関連するイベントと連携し、市民に大野がおかれている恵まれた水環境への感謝をあらためて発信します。
期待される効果	水に恵まれた大野を住民自身が魅力として再発見し守り伝え発信していくことで、その「精神と行動」に共鳴してくれる仲間を探し、仲間との交流を通じて、地域社会の本当の再生のために何ができるかを探ります。取り組みを世界に向け発信し、注目されることで、大野に愛着を感じることの少ない若年層住民の「気づき」を促し、大野へ住み続ける意識の醸成が期待されます。
KPI	Carrying Water Project に対する民間の年間協力件数：200件（R1）

4. 重点事業

② 結の故郷づくりに向けた事業の推進

目的	結の故郷にふさわしい人やまちを創ることを目的とするものです。
概要	平成25年2月に「越前おおのブランド戦略」を策定し、「結の故郷 越前おおの」をブランド・キャッチコピーと定め、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など本市が誇る魅力ある資源の全てを越前おおのブランドとして磨き上げるとともに大野市全体のイメージをアピールすることを目的とし、戦略を展開しています。 「結の故郷」づくりとは、次世代を担う子どもたちがふるさと大野を愛し続け、進取の気象を育てた明倫の心や、連綿と受け継がれてきたお互いに助け合い、支え合い、思いやる「結の心」を未来に継承していくとともに、越前おおの総ブランド化に積極的に取り組むことであり、そして結の故郷にふさわしい人やまちを創ることです。 地方創生・人口減少対策などの課題解決に向けたCarryingWater Project（キャリング・ウォーター・プロジェクト）や重点道の駅「（仮称）結の故郷」の整備などの大型プロジェクトをはじめ、現在推進している事業すべてが結の故郷づくりを目指すものであり、結の故郷づくりに向けての手段であることから、「市民力」「地域力」を生かし、市民と行政が一体となった様々な取り組みを進めていきます。
期待される効果	大野市の将来像「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」の実現

4. 重点事業

(5) 全体的に関連する重点事業

① 中部縦貫自動車道整備事業・幹線道路整備事業（国道158号）

目的	①中部縦貫自動車道：長野県松本市を起点に飛騨、奥越地方を通り福井市に至る約160km（東海北陸自動車道との重複区間約40kmを除く）の一般国道の自動車専用道路で、広域交通の円滑化を図ることを目的とするものです。 ②国道158号（大野－福井間）：大野市と福井市を結び通勤、物流、防災、救急救命の迅速化及び円滑化を図ることを目的とするものです。
概要	①中部縦貫自動車道 起点 長野県松本市（中央自動車道長野線・松本JCT） 終点 福井県福井市（北陸自動車道・福井北JCT） 延長 約160km（福井県内約60km） 車線数 4車線（暫定2車線整備）（「大野油坂道路」は2車線） 設計速度 80km/h（「大野油坂道路」は60km/h） 現在の供用延長 51.1km（福井県内19.8km） 事業主体 国土交通省（福井県内区間は近畿地方整備局福井河川国道事務所） ②国道158号（大野－福井）のうち未整備区間 境寺～計石間 延長 約5.3km 事業主体 福井県
期待される効果	①中部縦貫自動車道 ○高速道路ネットワークの形成 北陸中部地域の高速交通ネットワークの形成により、都市間の所要時間短縮が期待され、通勤・レジャーにおける利便性及び生鮮食品などの輸送効率が向上し、物流が活性化してゆたかな暮らしの実現が実現します。 ○広域リダンダンシー（代替路）の確保 北陸自動車道が大雪などの災害で不通となった場合に、近畿圏・中部圏への代替路（リダンダンシー）となります。また、関東圏、中部圏、近畿圏において、大規模地震が発生した場合、東西日本を結ぶネットワークを提供することが可能です。 ○災害時における安定した交通路の確保 国道158号は雨量による事前通行規制区間があります。平成16年7月18日未明に発生した集中豪雨で、国道158号、JR

4. 重点事業

	越美北線が通行止めとなりました。そのような状況の解消に向けて、中部縦貫自動車道を整備することにより、安定した交通路を確保することができます。 ○高度医療機関へのアクセス向上 大野市（旧和泉村）から第三次救急医療施設（福井県立病院）に向かう場合、搬送時間は1時間以上要しますが、中部縦貫自動車道の整備により第三次救急医療施設への搬送時間が短縮され、早期治療による救命などの効果が期待されます。 ②国道158号（大野－福井間） 朝夕の渋滞緩和や安全安心の確保の効果があります。 また、通勤圏が拡大することにより雇用の拡大や移住、定住の促進などの効果が期待されます。
--	--

●用語解説

番号	用語	解説
1	重要業績評価指標（K P I）	Key Performance Indicator の略で、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のことです。
2	バイオマス発電	木くずや燃えるゴミなどのバイオマス（生物資源）を燃焼する際の熱を利用して電気を起こす発電方式です。バイオマスは生育過程で二酸化炭素（C O 2）を吸収することからC O 2を排出しないとみなされ、温暖化対策として注目されています。
3	認定農業者	自らの農業経営を計画的に改善するための農業経営改善計画を作成し、市から当該改善計画の認定を受けた農業者のことです。
4	ワンストップサービス	市役所などの窓口において総合窓口を設け、さまざまな行政サービスをそこで受けられることをいいます。大野市保健・医療・福祉サービス拠点施設において、配置される市の担当部署や関係団体などが連携し、一体となった複合的サービスを提供することを目指しています。
5	結の故郷創生会議	大野市と株式会社電通のそれぞれが保有する資源を有効に活用し、相互に協力を図りながら人口減少対策に係る調査研究及び事業を実施する組織です。
6	一般職業紹介による就職率	公共職業安定所（ハローワーク）の職業紹介によって成立した就職率のことです。
7	観光W i - F i ステーション	公衆無線L A Nを利用し、観光拠点に設置した観光客向けのインターネット接続エリアのことです。
8	フェイスブック	Facebook, Inc. が運営する世界最大のソーシャルネットワークワーキングサービス（S N S：下記参照）のことです。
9	S N S	人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のW E Bサイトのことです。
10	いいね	S N Sの一種であるフェイスブックの機能の一つ。ある特定のコンテンツが好き、楽しい、支持できるといった意志を示すためのボタンであり、このボタンを押した人の数が表示されます。

1 1	合計特殊出生率	「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当します。
1 2	婚姻率	人口全体に対する結婚の発生頻度を表す指標のことです。通常、人口1,000人当たりの婚姻件数として表されます。
1 3	出生率	一定期間の出生数の、人口に対する割合のことです。通常、人口1,000人当たりの1年間の出生児数の割合をいいます。
1 4	Carrying Water Project (キャリング ウォーター プロジェクト)	日頃、水の恩恵を受けている私たちが、水への感謝という思いを運び・伝えることで、大野に住んでいる私たちに、この恵まれた水があることと、その環境に育まれてきたことを改めて気づき、誇りに感じてもらうための施策の一つです。
1 5	自助	自ら(家族も含む)の命は自らが守ること、または備えることを指します。
1 6	共助	近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えることを指します。